

ゴミの減量を！

清掃工場に搬入されているごみからも放射性物質は検出されている。ごみの焼却処分により発生した飛灰は、秋田県大館市に受け入れをお願いしていたが他地域から搬入されている飛灰の中から高い放射性物質が確認されたため、市民の反対運動により、搬入できなくなった。そこで、あらたに千葉県内に搬入をお願い少量ではあるが受け入れて頂くことになった。しかし、間もなく全面停止となった。更に、放射能の作業環境測定などを追加したため、焼却炉の停止期間が長くなり、通常の倍以上のゴミがたまっている。飛灰は第一工場に保管しているが、満杯となり、堆肥ストックヤードにも置いている。昨年末に一部の受け入れ先が決まったと聞いているが、懸案事項となっている。この際、ごみを減らしていくことが重要な課題となっている。(広報リユースをご覧ください。又ホームページで。)

1日30tづつ 増えている飛灰 ゴミの減量を！

東埼玉資源環境組合



白いシートで覆った屋外の飛灰



耐震診断の結果が出た築比地浄水場

水は安全か

～放射能検査体制に
議論集中～
越谷・松伏水道企業団

問 水道水の放射線検査体制はどう取り組まれているか。

答 企業団が提供している水の9割は江戸川を水源とし、残りの1割が井戸からくみ上げた水。埼玉県では放射性物質の定期モニタリング測定を5ヶ所の県営浄水場ごとに毎日行なっている。

自己水の築比地浄水場と南部浄水場の地下水は、地下250mから400mの井戸からくみ上げ、取水から浄水処理、送水に至るまですべてに渡り放射性物質の影響を受けない。安全確認のため浄水処理後のろ過水を採用し、モニタリング測定し、結果は不検出だった。

問 築比地浄水場の耐震診断の進捗と耐震化計画は。
答 耐震診断の結果、コンクリートの劣化はないが、耐震性能を有していない。今後は、平成24年度から3カ年で耐震補強工事を行う予定。(給水人口は、越谷市32万8千452人。松伏町3万1千215人)



被災地での上空ヘリからの救助訓練
(正規の訓練場は建屋内で高度差がある)

被災地に飛ぶ

～埼玉県防災航空センター視察～
吉川松伏消防組合

去る11月4日、吉川松伏消防組合は、比企郡川島町に設置された『防災航空センター』を視察してきました。

県は、大規模・複雑化する災害に対応するため、平成2年度に「防災ヘリコプター」を導入し、防災航空隊を発足させて運行を始め、県内の災害や救急医療だけでなく、阪神・淡路大震災や新潟中越地震、東日本大震災などの県外災害にも応援してきました。

今年、4月からは、国と県から新たに2機が貸与されて3機となり、点検・整備があっても常時2機の活動体制が整えられる。

説明を受けた後、模擬訓練が行なわれた。テレビの画面で救助ヘリの活躍を見た。訓練でしたが、体を張り命を懸けた、機敏で真剣なまなざしが強く印象に残った。